

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人茨城県国際交流協会

1. 事業の趣旨・目的

県内の日本語教育の有資格者を茨城県日本語教育アドバイザーとして登録し、ボランティア日本語教室等が開催する日本語講師養成講座に派遣することによって、各地域における日本語指導者の拡充を図る。

2. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
8月9日	財団法人茨城県国際交流協会	代理出席 県生活環境部国際課 課長補佐 鷲尾 重治 財団法人茨城県国際交流協会理事長 川俣 勝慶 財団法人茨城県国際交流協会事務局長 岩本 郁子	初級日本語ボランティア講師派遣申請状況の報告および派遣講師の決定。	派遣先4団体ならびに講師を確定。
3月14日	財団法人茨城県国際交流協会	代理出席 県生活環境部国際課 課長補佐 鷲尾 重治 財団法人茨城県国際交流協会理事長 川俣 勝慶 財団法人茨城県国際交流協会事務局長 岩本 郁子	初級日本語ボランティア養成講座実施報告。	派遣先4団体の講座の実施報告。

【写真】
第1回運営委員会



第2回運営委員会



養成講座の内容について

(1) 講座名 : 初級日本語ボランティア講座

(2) 開催場所:

	講座開催団体	開催場所
1	那珂市国際交流協会	那珂市高齢者福祉センター多目的室（那珂市菅谷 3198）
2	古河市国際交流協会	古河市中心公民館（古河市下大野 2248） 古河市サークル館・総和勤労青少年ホーム（古河市北利根 10）* 10/8, 11/5 のみ
3	土浦市国際交流協会	土浦市立六中地区公民館（土浦市烏山二丁目 2346-1）
4	子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	水戸市国際交流センター（水戸市備前町 6-59）

(3) 学習目標:

これからボランティア日本語教室の講師を目指す者や講師初心者に日本語教授法の基礎や具体的な手法を教授することで、講師数の増加と基礎的スキルの確立を図る。県内の日本語教育の有資格者を茨城県日本語教育アドバイザーとして登録し、ボランティア日本語教室等の養成講座に派遣することで、日本語指導者の拡充を図る。

(4) 使用した教材・リソース

	講座開催団体	使用した教材・リソース
1	那珂市国際交流協会	みんなの日本語 初級 I
2	古河市国際交流協会	みんなの日本語 初級 I
3	土浦市国際交流協会	みんなの日本語 初級 I、考えて解いて学ぶ日本語教育の文法
4	子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	ひろこさんとたのしいにほんご 1

(5) 受講者の募集方法

	講座開催団体	募集方法	添付ファイル
1	那珂市国際交流協会	那珂市広報誌、ちらし	広報 1
2	古河市国際交流協会	古河市広報誌、境町広報誌、古河国際交流協会ホームページへの掲載	広報 2
3	土浦市国際交流協会	市報「広報つちうら」への掲載、ちらし	広報 3

4	子ども向け日本語ボランティアせきれいの会	昨年公募し実施した日本語講座の受講生(せきれいの会会員)を対象とした講座のため、今年度は公募せず、会員にのみ口頭で周知	
---	----------------------	---	--

(6) 受講者の総数 102 人
(出身・国籍別内訳 日本 102 人)

(7) 開催時間数(回数) 115 時間 (全 50 回)

(8) 参加対象者の要件

茨城県内のボランティア教室に所属する日本語指導者の初心者、または、これから日本語教室を開催したいと希望する団体の会員

(9) 講座内容

回	開催日時	時間数	受講者数	講座名／学習内容	講師
① 全 12 回	9 月 3 日 9 月 10 日 9 月 17 日 9 月 24 日 10 月 1 日 10 月 8 日 10 月 15 日 10 月 22 日 10 月 29 日 11 月 5 日 11 月 19 日 11 月 26 日 9:40~12:10	2.5 時間 × 10 回 2 時間 × 2 回 (9/3 と 11/26 は 開校式、 閉講式の ため講義 は 2 時間) 全 29 時間	24 人	那珂市国際交流協会 初級日本語ボランティア 養成講座／「みんなの日 本語初級 I」の第 1 課～ 第 25 課を学習。 講座 1 回目は学習の進め 方、日本語教師について の概要等の講義。 講座 11, 12 回目は実習形 式(模擬授業)で実施。	茨城県日本語教育 アドバイザー 茨城大学留学生セ ンター 八若 壽美子
② 全 15 回	9 月 3 日 9 月 17 日 9 月 24 日 10 月 1 日 10 月 8 日 10 月 15 日	2 時間 × 15 回 全 30 時間	42 人	古河市国際交流協会 初級日本語ボランティア 養成講座／「みんなの日 本語初級 I」の第 1 課～ 第 25 課を学習。 講座 1 回目は日本語、日	茨城県日本語教育 アドバイザー コスモエコー(民間 ボランティア団体) 川辺 千恵子

	10月22日 11月5日 11月12日 11月19日 11月26日 12月3日 12月10日 12月17日 12月24日			本語教室、日本語教師等 についての概要の講義 講座 2,3 回目は日本語教 授法、文法指導等の講義。	
③ 全 10 回	10月14日 10月21日 11月11日 11月18日 11月25日 1月13日 1月20日 1月27日 2月3日 2月17日	3 時間 x 10 回 全 30 時間	20 人	土浦市国際交流協会 初 級日本語ボランティア養 成講座／「みんなの日本 語初級Ⅰ」・「考えて、解 いて、学ぶ日本語教育の 文法」を使用。 「みんなの日本語初級 Ⅰ」を中心に、時折実践 も交えながら講義を実 施。	茨城県日本語教育 アドバイザー 筑波国際アカデミ ー（民間語学学校） 中谷あゆみ
④ 全 13 回	11月10日 11月17日 11月24日 12月1日 12月8日 12月15日 1月12日 1月19日 1月26日 2月2日 2月9日 2月16日 2月23日	2 時間 x 13 回 全 26 時間	16 人	日本語ボランティアせき れいの会 初級日本語ボ ランティア養成講座／ 「ひろこさんのたのしい にほんご 1」と講師の配 布プリント 講座 1 回目は授業計画、 手順、文字、基礎応用演 習の方法など。講座 2～ 13 回は第 6～48 課までを 勉強	茨城県日本語教育 アドバイザー ボランティアネッ トワーク・さくら 日本語教室（民間 ボランティア団体） 本田 文江

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

初級日本語ボランティア養成講座は、日本語を教えた経験のない初心者や日本語教授法を学ぶ機会がないままボランティア日本語教室で教え始めた方などを対象としており、「日本語を教えるとは?」「日本語とは?」という基本的な知識・概要から、教案の作り方、新しい文型の導入方法といった実践的なノウハウまで盛り込んだ内容となっている。そのため、講座終了後、教える自信を得て「(早く)現場に出て教えたい」、「日本語を客観的に捉えることができ、ますます興味が高まった」などの受講者からのコメントが寄せられ、受講者の満足度は高かった。

派遣された講師は日本語教師としての経験が豊富で、なおかつ誠意を持って取り組み、受講生からは「各課のポイントを押さえたプリントを使い、分かり易い講座だった」「気軽に講師に質問ができ、初心者でも安心して受講できた」と好評であった。また、講師は、受講者が協力し合い、より活発な意見交換ができるようにと、講座の中に座学の講義だけでなく、グループワークや模擬授業を取り入れるなど工夫していた。これらの試みは、「グループ分けをして講義を行なったので、いろいろな相談をしたりしながら楽しく参加することができた」、「実践の機会を作ってもらえてよかった」と大変好評であった。

② 実施主体からの研修内容結果評価

初級日本語ボランティア養成講座を開催した4団体のうち、3 団体から最も高い「大変よかった」との講座に対する評価を得た(5段階評価)。残る1団体からは 2 番目に高い「よかった」との評価を得た。

これは、講座開始前に派遣講師と各実施団体が現在のボランティア教室での活動状況や希望する講座内容などについて細かく打ち合わせを行ない、講師が実施団体のニーズを的確にくみ取った研修内容を構成したことによると考えられる。また、教師経験の豊富な講師たちが講座で話した様々な経験事例や失敗談、さらには講師がすぐに受講生の名前を覚えたりするような教師としての姿勢などからも受講生たちは学ぶことが多かったようだ。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

各実施団体は、本講座の実施により、新たなボランティア日本語教師を確保することができた。受講生は講座で得た知識を活かし、実施団体のボランティア日本語教室で外国人の日本語学習希望者に日本語や日本文化、習慣などを教えたり、小中学校における外国人児童対象の日本語教室で教師の補助をしたりする予定である。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

当協会が毎年実施している「外国人による日本語スピーチコンテスト」には、今回（平成 24 年 2 月 18 日）も県内のボランティア教室で学ぶ多くの外国人がスピーチの発表者として応募、参加した。このコンテストでは、県内の日本語ボランティア教室の講師によって選出される「日本語ボランティア賞」が設けられており、33 名のボランティア日本語教師が日本語ボランティア賞の審査員として参加した。このコンテストは、ボランティア日本語教室講師やその学習者の活動のモチベーション向上の一助となっている。

また、当協会では初級講座の他に、レベルアップ講座を協会独自に開催している。初級日本語ボランティア講座を実施したほとんどの団体が、ボランティア日本語講師のさらなる能力向上のためにこのレベルアップ講座を実施している。

② 研修後の人材活用

講座参加者のほとんどが初心者であり、本講座を修了後、受講者は各実施団体の主催するボランティア日本語教室の会員となる。受講者は今回の講座で得た知識や教授法、授業のコツなどを実践の場である日本語教室で活かし、外国人への日本語教育活動に積極的にかかわっていくことが期待される。

(12) 今後の課題

応募団体のうち、地理的に近く、受講生が 15 人以下の団体に他団体との共催を勧め、講座の実施に至ったケースがあった。その結果、講座開催最低人数を 20 人から 15 人に引き下げたのにもかかわらず、講座の 1 回あたりの平均参加者数が前年度の 15.5 人から 18.3 人に増加し、費用対効果を向上させる結果となった。講座運営の財源確保が厳しい中、現場（ボランティア日本語教室）の状況を見ながらニーズに合わせて柔軟に対応していきたい。

今年度は震災の影響で、県内在住の外国人の数が一時的に大きく減ったり、日本語教室を開催している公共施設などが使用できなくなったり、また日本語ボランティア教師自身が被災したりしたため、日本語教室にとっては大変厳しい一年であった。茨城県は約 5.2 万人の外国人が住んでおり、その多くはボランティア日本語教室で日本語を学んでいる。日本語の学習機会を提供するだけでなく、生活に必要な情報共有や生活相談の場ともなっている日本語教室のコミュニティにおけるその役割は大きい。今後も県内在住の外国人に対し、日本語教室を通じ、いかに効率的で有効な支援が可能か検討していきたい。